

令和３年度の森林環境譲与税に関する決算状況一覧

事業区分	事業名	事業総額（千円）		事業内容	実績	税導入の効果
		うち森林環境譲与税（千円）	うち他の財源（千円）			
市町村支援	とくしま「新たな森林管理システム」推進事業	16,142	16,142	0	新たな森林管理制度の円滑な運営を推進するため、森林情報の整備や地域課題等解決の取組支援を行う。 ・森林GISにおいて、過去の施業履歴の整備や微地形表現図のデータ整備を行った。 ・県下24市町村等を対象に担当者会を開催し、林野庁より講師を招き森林経営管理制度等への理解を深めた。（1回、50人） ・県内の森林経営管理制度における取組事例をまとめた。 ・県内個別の課題支援として、県西部にGNSS導入等の支援を行った。	
人材育成	集まれ！山の学舎フォレストキャンパス事業	1,770	1,770	0	小中高校生の「職業としての林業」を意識付けるため、出前授業や林業体験を実施する。 ・出前授業、林業体験（21回、296人）	
	新たな林業担い手確保事業	3,520	3,000	520	林業就業相談会の開催やタウン誌等による広報活動を行う。 ・相談会（3回、34人） ・タウン誌（9回）掲載	【ワンフリーズ】 税活用により、県全域の施業履歴GISデータの作成と微地形表現図等を作成した。 令和３年度入学の「とくしま林業アカデミー」の研修生19名を即戦力として育成するなど森林整備を担うべき人材の育成確保につながった。 木育の拠点として、「徳島木のおもちゃ美術館」を整備した。 【詳細】 令和３年度の税活用により、過去の施業履歴のGISデータを作成したほか、レーザー測量のデータを用いた地形の起伏が明瞭に判読できる微地形表現図を作成し、市町村が森林経営管理制度を推進していくための基礎データの整備につながった。 とくしま林業アカデミーは1年間で実践的な林業技術を習得し、県内林業事業体へ即戦力として送り出す期間であり、令和３年度は19名全員が林業事業体に就職した。 小・中・高・大学生の「職業としての林業」を意識付けてもらうための出前授業や林業体験の実施、林業従事者への技術向上のための実践教育や資格取得研修を実施することで、林業担い手の育成による市町村支援を図っている。 徳島木のおもちゃ美術館は幅広い世代に森林の役割や重要性、木材の良さなど「遊び」「学び」「体験」できる全国初の都道府県立のおもちゃ美術館であり、館内の内装やおもちゃなどには県産材をふんだんに使用している。 県産材の利用促進として県産材を用いた新築又は改修を行う事業者に対して、現場見学会の開催やのぼり旗設置などを条件に支援することで、県産材の優れた居住性についての普及啓発につなげた。
	とくしま林業アカデミー運営支援事業	45,000	45,000	0	林業の担い手を確保するため、即戦力となる人材を育成する「とくしま林業アカデミー」の運営を支援する。 ・研修生19名に対して、年間230日の研修を実施した。 ・研修生19名全員が県内の林業事業体等へ就職した。 ・次年度の研修生を募集するため、広報用のパンフレット作成や雑誌掲載・各種イベント活動を実施した。（令和4年度：22名確保）	
	林業成長産業化徳島モデル創出事業	10,695	2,695	8,000	新たな林業機械の実用化を図るための実証を行い、林業現場への導入を検討する。 ・3種類の集材システムごとに生産性を調査した。 ・ケーブルグラップルを使用した集材システムは実証会を開催し、県下へ普及活動を実施した。（1回、68人）	
	林業技術研修事業	10,036	7,123	2,913	林業経営の近代化を推進するため、林業技術・技能の実践教育や資格取得研修を行う。 ・研修（12回、215人）	
木材利用普及啓発	徳島木のおもちゃ美術館整備推進事業	533,395	40,000	493,395	新たな木育拠点となる徳島木のおもちゃ美術館の建築、備品制作、おもちゃ学芸員養成等を行う。 令和3年10月24日に開館。 令和3年度末までに約60,000人が来館。 ボランティアスタッフとして活動するおもちゃ学芸員については、養成講座を受講した179名が登録された。	
	使おう県産材！「徳島すぎの家」普及拡大事業	2,998	2,224	774	県産材のさらなる消費拡大を図るため、住宅等民間建築物における事業者支援を行う。 支援事業者数：7件 うち、10m3以上15m3未満が1件 20m3以上が3件 内装木質化が3件	
合計		623,555	117,953	505,602		